

在宅療養患者の急変時入院等に関するアンケートについて

1 在宅療養患者の急変時の対応等における現状についての意見

昨年度の地域医療推進懇談会や前回の作業部会において、次のような現状についての御意見を頂戴しました。

診療所：将来の在宅医療の需要に見合う供給体制の整備が必要だが、急変時の入院受入れ体制が十分でないと、在宅医療へ手掛けられない

高度急性期病床を持つ病院：二次救急の受入れも必要な中、在宅療養患者の急性増悪への受入れも多くなると大変、入院期間が長期になると対応が難しい

急性期病床を持つ病院：救急を含め、在宅療養患者の入院依頼を受ける際、治療方針が分からないケースがあり、対応に困る

2 前回の作業部会で出た対策案

それに対し、前回の作業部会では、急変時入院の受入体制や、病病連携において患者の流れを円滑にするための対策について、次のような提案がありました。

①急変時入院の受入先を分散し充実させるために、市内各病院の受入体制や受入可能な条件などを診療所に情報提供してはどうか。

②診療所から入院依頼をする際の診療情報提供書に、一週間程度の入院でいいことや、積極的治療は望まれていないこと等の治療方針を明記すれば、受入れ側も安心されるのではないか。

③高度急性期病床を持つ病院から、ポストアキュートの患者の流れを円滑にするために、高度急性期病床を持つ病院から医療や看護のスキル向上のための支援をうけるしくみがあればいいのではないか。

3 在宅療養患者の急変時入院等に関するアンケートについて（集計結果：資料4-1）

それらの点について、各病院のお考え等を伺うアンケートを実施しました。

【対象】

○作業部会委員の病院（5病院）

吹田徳洲会病院、協和会病院、大和病院、井上病院、平海病院

○懇談会委員の病院（3病院）

市立吹田市民病院、済生会千里病院、済生会吹田病院